

団だより

カラーWEB版は、5回ホームページ <http://kama5.sakura.ne.jp/index.htm> でどうぞ。



ユースの活気に期待する

学校生活では学年末を迎えるこの季節、スカウト活動は夏のキャンプを集大成とする年間活動の折り返し地点に差し掛かります。未だ残暑の厳しい9月の入隊・上進式から半年がたち、大きめの制服が初々しかった新入スカウトたちも上手にベレーが被れるようになった頃だと思います。

さて、スカウト活動はオトナ社会からの「お仕着せ」ではなく、青少年の「自発的参加」によることが「理想の姿」とされますが、本団のスカウトたちは果たしてどうでしょうか？

そもそも子供とオトナのニーズは違って当たり前。子供たちはいつでも「こうしたい!!」と云う欲求を沢山持って、そのためには前後左右の見境なく全力疾走出来るエネルギーも持ち合わせています。一方でオトナは、自らの経験を踏まえて子供に「こうあってほしい」と云う期待を寄せます。勉強やスポーツを通じて学力や体力、社会性を養って欲しいと願うのはオトナのニーズであり、子供たちはどこまでも「あそび」や「ゲーム」として楽しく・エネルギーを発散出来る機会と場所を希求します。

スカウト活動の魔法は、この子供とオトナ社会、双方のニーズを上手に調和させ「楽しく・意味があり・魅力的なプログラム」に変身させることにあります。それは家や学校の中では見つけられないものであるが故に、スカウト運動は発生から100年間、全世界の青少年と社会から支持されて大きく成長して来ました。

この「異なるニーズの調和」では、子供とオトナ社会の

中間に位置する「ユース」（ローバーやベンチャー年代）が自らの体験を活かして幼い弟や妹たちに身近なお手本を見せながら、時にはオトナに対してもピリッとしたスパイスを利かせることが重要です。いつの時代もローバーやベンチャーは後輩スカウトたちにとって「憧れ」の対象であり、彼らを目指して活動を続けることでスカウト運動の「一貫教育」の理念が形となります。勿論、このユースの参画には、オトナによる適切な示唆や具体的な支援も必要でしょう。しかし、何と云ってもまずはユース自身が自らの意志の下に行動を起こすことが大切です。ユースの参画によって、スカウト活動は「青少年による青少年のための運動」となるのです。

幸いなことに本団では、全ての部門においてローバー年代が指導者の一翼を担い、運営上の意思決定に参画するチャンスが設けられており、ベンチャー年代も先輩とともに様々な奉仕を通じて自己研鑽する機会に恵まれています。「ローバーはスカウト運動の電源」と云う言葉もあります。所属隊における後輩の指導に、団行事の企画運営に、地域行事への奉仕に、ユースの更なる活躍を期待します。

**“スカウティングは成人に支えられた
青少年の運動であって、
成人のみによって管理・運営される
青少年のための運動ではない”**

1993年世界スカウト会議：
「意志決定への青少年加盟員の参画に関する方針」より

お友だちを
活動にさそって、
スカウトの輪を
ひろげよう!

団委員長 **當麻洋一**

ぼくは、ボーイに上がってから、今まで知らなかった事を学びました。
 地図の書き方やテントの作り方を上級スカウトに教えてもらいました。
 ぼくは、その中でもテント作りが大変でした。ぼくは、力と集中力がありませんでした。
 ベグを打つ時も、力がなく打てませんでした。その時思いました。
 「やっぱりテントを作るのはむずかしい」と思いました。
 ぼくが好きな事は、キャンプです。自分達で計画をたてて全部自分達でやるのが楽しいです。
 これからのぼくの目標は、2級スカウトをとって
 日本ジャンボリーに行って、いろんな人と友達になって
 世界のひとと友達になりたいです。

三牧駿太

ぼくは、上進するか悩んだ時期がありました。
 上進する事を決めた時、自分自身で「人の気持ちを考えて行動する」
 というちかいを心の中でたてました。
 ボーイ隊でおもしろいのは色々自分達で計画をたてて、それを実行する所です。
 大変なのはペーパーの時です。ゴミ持ちをさせられたり、
 ただただまき拾いをしたりすることが思っていた以上に大変でした。
 今はただ言われたことをやるだけですが、
 先輩達を見て自分で計画をたてられるようにしたいです。

芦澤拓海

ボーイ隊に上進して

私は、上進してから色々な事を学びました。
 例えば、キャンプの時のキスリングのつめ方や料理の仕方です。
 カブスカウトとは違い、時間内にスカウトだけで料理をします。
 立ち釜がうまくできないと料理が作れません。まきの量が少ないと、火がうまくつきません。
 これらの事がうまくできないと、ご飯を食べる事ができません。
 キスリングのつめ方も、これも大切です。きちんとつめないと背負って歩く時にとっても大変です。
 バランスが悪いのでふらふらしてしまって、むだに体力を使ってしまう。
 これではとてもじゃないけれど歩けません。
 これらの事を生かし、家族とキャンプに行った時に
 やってみたいです。

守田なつみ

ぼくは、最初ロープ結びの事を教えてもらう時に予習しておけばよかったです。
 その次に、いきなり「キャンプ」。必要な用具以外にもリストに書いてある物、
 全て持ってきてしまって後がつかったことです。
 キャンプの帰りに必要な物だけにすれば、けっこう軽いと思いました。
 家に帰宅後、洗う物は、全て出したと思ったら、その5日後、カビの生えた食器ができました。
 もうキャンプはこりごりです。
 募金の時は、後から行ったのですが、スポーツの帰りだったので、すぐ、
 すいとうの中身が空になってしまいました。
 大きな声で「ユニセフの募金、ご協力おねがいします」と言ったら3人ほど来てくれました。
 一石二鳥だと思いました。理由は、①ストレス発散、②ユニセフをよびかける
 こんな良い事ないと思います。
 ナイトハイクは、恐ろしいと思います。だって何時間か夜の町をさまようのです。
 もし、ねながら歩くと仲間からはぐれて、迷子になって、
 一人ぼっち、夜があげないとわからないのです。
 おまけに、ぼくは方向オンチ。もっともっと不安です。

滝口慎ノ介



ぼくは、ボーイスカウトに入って一番楽しかったのは、キャンプです。
 なぜなら、自分たちでテントを張ったりしたり、自分たちで自分たちのご飯を
 作ったりするのが楽しくてたまりません。又楽しいキャンプに行きたいです。
 一番つらかったのは、ハイキングです。ハイキングはとてもつらく、歩くのがとても大変です。
 でもボーイスカウトだからあきらめずにがんばりました。
 ボーイスカウトは、つらく大変だけど、
 楽しいこともあるのでやってよかったと思います。

木村航洋

朝早く起きて、重いキスリングをしょってビヒンコまで行った。
 そのあと、目的地まで行った。雨がふっていてビショビショだ。
 そして、きがえて、テントをたてた。その後は食事ができるようにまきひろい。
 ごはんを作るためにたちかまどを作った。ごはんを作ったら食べた。夜に歌をうたった。
 ねむくなってきて起こされた。
 洗い物などをした。ねるのは10時できつかったけど、ふとん3秒だった。
 朝、食事をしてたちかまどを解体させ、テントも解体させた。そしてキスリングをしょって帰った。
 ボーイスカウトはカブスカウトとはちがっていて、
 自分で行動することが多くてつらかった。

小早川 笙

お友だちを
活動にさそって、
スカウトの輪を
ひろげよう!

去る1月14日、鎌倉駅周辺で5団スカウトたちによるユニセフ街頭募金活動が行われました。寒空の元、元気に声を張り上げるスカウトたちの健気な姿は、みなさまの記憶に新しいことと思います。当日の募金総額99,561円は例年通りUNISEF (国際連合児童基金) の「ユニセフ国内委員会」にあたる日本ユニセフ協会へ送金いたしました。UNISEF (国際連合児童基金) は、一言で言うと「世界の子供たちの命と健康を守るために活動する国際機関」です。日本ユニセフ協会に届いた募金はユニセフ本部に送られ、ユニセフ各現地事務所を経て『予防接種』や『教材』等々さまざまな支援に形を変えて156の地域の子供たちの元へ届きます。このユニセフの活動における資金のうち、募金等の民間の協力によるものは約45パーセントにもなるそうです。

ユニセフ募金活動

ぼくは、天園のちょっとだけのハイキングのあとに、ユニセフほ金をせしました。まず、天園のちょっとだけのハイキングは、坂がきつくてつらかったけれども、みんなで行ったので楽しかったです。次に、昼めしをたべたあとに、ユニセフほ金をしました。ユニセフほ金では百円や五十円などいっぱい入れる人が多かったけれども、中には千円やおさいふの中身全部いれてくださった人もいました。きっと今は世界の苦しんでいる人などにいっぱいきふされていると思います。さい後に、たい長からジュースをもらいました。ぼくは、パイナップルを選びましたが、一口も飲みませんでした。なぜなら、もったいなかったからです。ユニセフほ金は寒かったけれども、少しでもこまっている人にいっぱい使われてほしいから、がんばりました。

三好大翔

ぼくは、1月14日、成人の日に、鎌倉駅でユニセフほきんをしました。ぼくは、ボーイたいのたいまさんといっしょになりました。ユニセフほきんをはじめたら、いきなりいたくらさんのおかあさんが、1円、5円、10円、50円をいっぱいいれてくれました。ぼくたちは大きな声で「ありがとうございます」とおれいをいってユニセフほきんをつづけました。すると、次々に色々なユニセフほきんを人にさんかしてくれました。中には千円札をいれてくれる人もいました。このようにいろいろなユニセフほきんを人に協力してくれたおかげで、ごはながたべられない人やおうちのない人がたすかると思います。最後にジュースをもらってかいさんしました。また来年も、ユニセフほきんをしたいです。

佐々木駿太

まず始めにハイキングに行きました。3回目だったのでつらくありませんでした。次にえがら天神で今年のみひょうをいきました。ぼくは、「学校のべんきょうをがんばりたいです」といいました。そのあとに八まんぐうで団いん長の話を聞きました。団いん長はこんな話をしていました。「世界には、ごはんをたべられない子たちもいて、それがげんいで死ぬ子もいる、だからユニセフほ金をする」と言っていました。そのあとにユニセフほ金をしました。さいしょのほうは、あまりこなかったけど、と中からどどんきてうれしかったです。みんな「がんばってね」とか「さむいのおつかれ」とかを言ってくれたのですごうれしかったです。ユニセフほ金は、ぼくたちみたいにすきなものを食べられて、ごはんをのこせて、きれいな水をのめているせいかつをできない子たちもいるのだから、僕はその子たちのやくにたちたいです。来年のユニセフほ金までもっとべんきょうしたいです。

島田大介



お友だちを活動にさそって、スカウトの輪をひろげよう!



スカウトのみなさん。みなさんの“呼びかけ”は、確実に、世界の子供たちを守るための力になっているのだということ、どうぞ誇りに思ってください。そして、みなさんの呼びかけに応え、募金してくださった方たちへの感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいと思います。

鎌倉5団では毎年明け第2日曜日鎌倉駅周辺でユニセフ街頭募金活動を実施しています。この他にもバザーなどの行事の際は一般のお客様にも募金を募っています。募金活動へのみなさまの支援、ご協力に改めて御礼申し上げます。

※ユニセフについてもっと詳しくお知りになりたい方は、ホームページ <http://www.unicef.or.jp> へ



2007年11月18日、西鎌倉幼稚園ホールにて「全団成人セミナー」が開催されました。

大勢の保護者にお集まりいただいた中、第一部は樋下田RS隊長、三浦VS隊長、土田VS副長の三人にスカウト時代の体験談、その頃の活動の様子、気持ちなど

普段なかなか聞くことが出来ないような話-を発表して頂きました。

その後、短い時間でしたが、3つのグループに分かれて、スカウトの家庭での様子、

これからスカウティングを通して子供達とどのようにかかわっていけばよいか、など話し合いました。

全団成人セミナーに参加して

私と同年代の方に、貴重な体験談を聞かせていただく機会を催して下さい、ありがとうございました。

各先輩方の感じられたこと、まさに今、吾が子どもも感じているやもしれません。貴重なお話でした。

ボーイスカウトは同じ年代の仲間だけでなく、幅広い年齢の縦のつながりがあります。そのような環境の中で得るものは、これからの人生の中で必ず役立つものだと確信しました。

一つのことを続けていくことは大変なことです。ボーイスカウトの活動を通じ、多くのことを学んでいってほしいと改めて感じました。

板倉朋哉

昨年9月からスカウト入隊したばかりなので、正直申しまして、成人セミナーも訳が分からずただ座ったり立ったりしていたという感じでした。

ボーイスカウトというものの宿命なのかもしれませんが、知人に誘われたというのではなく、父親の私のみが子どもにいろんな体験をしてもらいたいと考え、スカウトへ子どもを入隊させようと考えたのですが、保護者も何かの役割を負わなければならないという先入観があり、母親の多い中、父親である私にそれが出来るだろうか、と。

そのことが入隊を多少躊躇させていたという事はありました。ちなみに妻はおりますが、仕事の関係もありスカウトの事にはタッチできないと思います。

子どもは活動に毎回楽しく参加させていただいてまして、運営に携わっていただいている皆様には感謝の一言ですが、もし自分が何か役を負った際には、果たして自分には出来るだろうか、という不安はあります。

場違いな内容となってしまったかもしれませんが、何卒ご容赦ください。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

浦山和久

今回、お三方がボーイのときの経験と何故今も続けているかを聞かれたときに、「うーん、なんでだろう」と異口同音で考えていたことが印象的でした。

続けていた事が良かったとまでは口に出しては言っていないのに、むしろ大変なんだけどなー、と言っているのに、「やっぱり続けちゃうんだよね」という結論を出していると感じる事が自分でも不思議だな、と思いました。

私は小学校の途中まで、一棟30世帯×5棟と公園ひとつ、という小さい団地に住んでいたのですが、公園では数十人が毎日遊んでいて、大人は隣の集会所に誰かしらが居てくれたので、何かあればかけ込めば良かったし、中高生のお兄さんお姉さんがよく遊んでくれていました(今から思えば、親に言われて渋々子守りをしてくれたお兄さんお姉さんも多々いたようです)。子供会主催でよく肝だめしや花火大会、ハイキング等がありました。小5の時に引越した先は、クラスの8割がカギツ子で、子供会自体がありませんでした。相変わらず公園は子供で溢れていましたが、皆で学年を越えて遊ぶ、という事がなくなったのは、私にとってはこの頃からです。

今、自分の子といっしょにカブの活動に参加していると、当時の事を思い出します。今回のテーマが「子供のために子供のために親ができる事」だったのですが、当時の近所の周りの大人は、自然にそういう事をやっていたのだと思います。

ボーイスカウト活動は、かなり意識的にそれをやる事なのでしょう。奉仕という言葉になるからすごく堅苦しい感じはあるし、大変だと思うけど、誰かの受け売りによれば、ボーイスカウトは、広く浅く体験させる事によって、自分自身の進む道を探させ、他人を思いやる心を発達させる事が大人の役割とのこと。聞いた時に、『なんだ、それって理想の子育てじゃん』とってしまいました。

今、縁あってボーイスカウトという、子供の生長を考えて活動している方々と出会えました。私は子供をボーイスカウトに上進させるかは、まだどっちでもいいと考えています。でも、今、子供といっしょに活動できる事を大切にしたいと思っています。

筒井礼子

お友だちを活動にさそって、スカウトの輪をひろげよう!